

幡中だより

あやめ

～since 1999～

第 304 号

令和 6 年 10 月 4 日  
瀬戸市立幡山中学校



## 瀬戸に根付く芸術と教育の情熱

瀬戸市立幡山中学校長 梶田 明敬

正門から校舎に向かって歩いていると、正面の壁に大きな「幡中」の校章が目に入るのをご存じでしょうか。実はこの校章、16 枚の陶板から成り立っており、1 枚 1 枚のパーツが合わさって「幡中」の校章を形作っています。瀬戸市には、このように陶板を組み合わせる一つの大きなアートを作る「陶壁」が各所に見られます。文化センターの大ホールにある加藤唐九郎さんの作品も迫力がありますね。

市内には 60 を超える陶壁があるそうですが、この「陶壁」の火付け役となったのが、今年生誕 130 年を迎えた画家の北川民次さんです。皆さんはご存じでしょうか。

普段何気なく目にしている瀬戸蔵東側の陶壁（以前の瀬戸市民会館から移設されたものです）、瀬戸市立図書館の壁画など、市内には北川民次さんの作品が多くあります。恥ずかしながら、私は瀬戸に 30 年も勤務しているながら、北川さんの名前しか存じ上げておらず、これを機に名古屋市美術館と瀬戸市美術館で開催された北川民次展に足を運んでみました。



北川画伯は静岡県出身で、大正時代にメキシコに渡り、現地で子どもたちに美術を教えながら創作活動に励みました。戦時中、疎開先として奥様の実家があるこの瀬戸市を選び、疎開生活の中でこの地を大変気に入り、瀬戸の窯焼きや人情を作品に取り入れました。また、愛知県立瀬戸高等女学校（現・愛知県立瀬戸高等学校）の教員を務めたり、名古屋で児童美術学校を開いたりするなど、子どもたちへの美術教育にも尽力されました。

瀬戸市では、図工や美術教育が非常に盛んで、子ども陶芸展や子ども版画展といった歴史ある展覧会が長く続いています。この伝統は、北川画伯の情熱を受け継いだ瀬戸の美術教員たちが、大切に守り続けているのだと思います。

瀬戸を愛し、この地で生涯を終えた北川画伯。その意志を受け継ぎ、私たちも子どもたちの豊かな感性を育て、情熱をもって教育を続けていきたいと思っています。

## 2年生 野外活動

9月8日(日)～10日(火) 若狭湾青少年自然の家  
スローガン  
「スマイル ～楽しだもん勝ち～」

本年度も2年生は若狭湾の美しい海を目の前に、2泊3日の日程で野外活動を行いました。初日の夜は浜辺でキャンプファイヤー、2日目は仲間との協力が肝となる、カッター体験と野外炊飯を行いました。最終日は施設や部屋の清掃を行い、コース別体験後に自然の家を出発、帰路につきました。晴天に恵まれ充実した3日間でした。



## ロウビル校との国際交流事業

9月17日(火)、20日(金)

瀬戸市が行う国際交流事業の一環で、オーストラリアのメルボルンから10名の学生と3名の教員が瀬戸市を訪れ、市内の中学校生活を体験しました。幡山中学校では2日間、学活や教科の授業を体験しました。国際理解を深める良い機会となりました。



## 校内草刈り奉仕活動

9月28日(土) 6:50～10:00

本年度は、コミュニティ・スクールの活動の一環として、校内の草刈り奉仕活動を行いました。たくさんの地域・保護者の方に参加いただき、ありがとうございました。刈った草はしばらく乾燥した後、生徒たちが集めてから袋詰めして片づけました。



『お知らせ』

11月5日(火)は学校公開日です。幡中の様子を知っていただける絶好の機会です。地域のみなさまは、1～3限の間で、ご都合に合わせてお越しください。分散授業公開のため、下のいずれかの1限分の時間帯をご参観いただけると幸いです。

【1限は 8:45～9:30 2限は 9:40～10:25 3限は 10:35～11:20】